

現代の ことば

いなが
稲賀
しげみ
繁美

昨今の脳科学では報酬系と懲罰系という解釈が幅を利かせている。単純に言えば、外
な刺激が脳の特定の部位に快不快を与える。それに
て神経回路が形成され、感情が左右され、それが行動を支配し、ひいては道徳的判断の基礎となる。「パヴロフの犬」の現代版だが、この図式は危険きわまりない。

個人の我欲を基礎として快不快を定めるかぎり、この報酬・懲罰系は強化される一方だろう。ことは金融の世界に
はとどまるまい。反社会的な悪徳が脳髓には快となり、社会的な義務が不快として刷り込まれてゆけば、社会は崩壊

が経済原理であり、金融はその手段である。「ビジネス」にとっては、納税が懲罰系、脱税が報酬系。行き着く先がタックスヘイブンとなる。

私腹の財から 公共の財へ



の危機に瀕する。

ひたすら射幸心をあおるゲームソフトが危険なもの、同様の理屈からだ。そこには麻薬に劣らぬ常習性があり、脳内汚染の中毒症状が昂進すれば、人格崩壊すら招きかねない。おまけにこれは伝染する。

もっぱら財テクによって利潤を追求し、自分の預金や株が増えることばかりに快楽を感じるような神経回路。それが大脳皮質にニッチを築

くと、手に負えないことになる。

納税志向を高めなければ、日本発の債務破綻は地球規模の災厄となる。この危機を回避する術はあるのだろうか。発想の抜本的転換が必要だ。

そこで心理学がこうささや

く。自己愛よりも利他行為のほうが、より大きな快楽をもたらすと。昨今では、人工知能ですら、わざとヒトに敗北を喫するほどの知性を身に付けた。ロボットがゲームに負けると、人々が喝采する。

それを見たロボットが、喝采を報酬と誤解？して、学習したからだ。

喜捨が喜びの源となる。私の利益を増やすかわりに、無

私の投資に目を向けよう。利潤獲得ではなく、給付の促進へ。所有欲をあおるのではなく、贈与欲を刺激しよう。

これはイスラームの教えでもあるが、今の金融経済界を支配している根本原理を否定する革命につながる。

サイバー・スペースでは、クラウドつまり雲が増殖中である。以前なら買物物は自宅に持ち帰り、財貨は金庫に蓄めたものだ。ところが情報財は、むやみにため込んでも、私蔵は死蔵、無駄となる。占有よりも循環、我有よりも共有が大切だ。個人のUSBメモリーに情報をため込む代わりに、公共の「雲」に放出する方が、使い勝手もよくなっ

てきた。私腹を肥やす代わりに、上空の「雲」に放出することで、財はその価値をさらに増す。

人々と分かちあっても各自の取り分が減ることがないような財。そんな白雲が群れ成して飛び交う青空への憧れが、利潤の通念を塗り替え始めている。無論、善行は、サイバーテロやハッキングといった悪事も背中合わせ。だが情報の共產主義というユーティアは、キリスト教の説く清貧の徳や、仏教の根本義をなす「空」にも通ずる。解脱への途がここに開ける。

(国際日本文化研究センター副所長、比較文化・文化交流史)